

令和元年度に検討した「ハザード予測(影響範囲)」
に資する施策・研究の方向性について

令和2年8月25日

火山防災に係る調査企画委員会(第5回)

ハザード予測(影響範囲)のこれまでの検討経緯

第3回 火山防災に係る調査企画委員会(令和元年7月17日)

火山防災の施策・研究の方向性に係るテーマ設定

テーマ:「①噴火予測・前兆現象の評価」、「②噴火後の推移の評価」、「③ハザード予測(影響範囲)」、「④観測」

火山防災に係る技術動向検討グループによる検討(令和元年8月～令和2年2月)

令和元年8月5日

検討テーマと今後のすすめ方について確認

令和元年10月9日

「ハザード予測(影響範囲)」に資する技術的課題及び解決のアプローチ等について、委員から話題提供

- 気象庁「噴火が発生した場所の特定の重要性について」
- 砂防部「リアルタイムハザードマップについて」
- 青山委員(北海道大学)「空振計や地震計等を用いた火口の特定の観点から」

令和元年12月26日

報告書骨子案を検討

令和2年2月13日

報告書案を検討

第4回 火山防災に係る調査企画委員会(令和2年3月19日)(書面開催)

技術動向検討グループからの報告と施策・研究の方向性

噴火予測・前兆現象の評価、噴火後の推移の評価、ハザード予測(影響範囲)、観測

第5回 火山防災に係る調査企画委員会(令和2年8月25日)

令和元年度に検討した「ハザード予測(影響範囲)」に資する施策・研究の方向性のとりまとめに向けた意見交換

※その他のテーマについては、後日、意見交換予定

第3回調査企画委員会（令和元年7月17日）の概要と主なご意見 「ハザード予測（影響範囲）」

第3回 火山防災に係る調査企画委員会（令和元年7月17日）

火山防災の施策・研究の方向性に係るテーマ設定について議論し、技術動向検討グループで議論するテーマを決定。

1. 事務局より火山防災の課題とアプローチの方向性(案)を説明
2. 砂防部よりリアルタイムハザードマップについて説明
3. 意見交換

主なご意見

- 噴火または前兆現象がある程度想定範囲内でない場合は、火口位置や噴出量の設定をしてシミュレーションを実施し、影響範囲をリアルタイムハザードマップとして情報提供をしている。
- リアルタイムハザードマップが既に導入されていて、これを高度化するために何が必要かというのが書かれており、例えば火口の位置、地形、噴出量の速やかな情報共有の観点から、技術動向検討グループの中で議論することが重要ではないか。
- 火山学としては正確であればあるほど良いかもしれないが、行政側はおそらく安全サイドにたって避難を決定するので、防災行政のニーズとしては正確な予測ではないのではないか。

第4回 火山防災に係る調査企画委員会（令和2年3月19日）（書面開催）

主なご意見

- 大学や国の研究機関は研究を推進し、その研究成果を行政施策に反映させることが重要である。
- 国土交通省は研究成果を「火山噴火リアルタイムハザードマップシステム」に反映させることが重要である。
- UAV等により調査した地形データの共有について、速やかに検討することが重要ではないか。

- 調査企画委員会で設定された4テーマそれぞれについて、技術的課題を整理し、課題解決に向けた研究目標と研究・技術開発のアプローチを3段階の時間スケールで検討

調査企画委員会で設定された4つのテーマ

①噴火予測・前兆現象の評価

②噴火後の推移の評価

③ハザード予測(影響範囲)

④観測

技術動向検討グループでの検討フレーム

- それぞれのテーマの技術的課題を整理し、解決に必要な時間スケールに応じた研究目標と研究・技術開発のアプローチを検討
- 時間スケールは、比較的短期(5年程度)、中期(10年程度)、最終的の3段階で検討

研究目標

具体的なアプローチ

比較的短期
(5年程度)

比較的短期(5年程度)の
達成が見込まれる目標

中期
(10年程度)

中期的(10年程度)に
達成を目指す目標

最終的

最終的に達成を
目指す目標

課題解決に向けた
研究・技術開発の
アプローチ

テーマごとに、技術動向検討
グループにおいて議論・検討

技術的課題から検討



凡例



